

研究成果の紹介

パリセードグラスの広条播種栽培

— 畑輪作体系への線虫抑制作物パリセードグラス導入を目指して —

【研究の背景】

南九州地域ではサツマイモネコブセンチュウやミナネグサレセンチュウが基幹作物であるサツマイモやサトイモの生産阻害要因になることがあります。飼料作物パリセードグラス（別名ブリザンタ）の品種「MG5」は、この両方の線虫の増殖を抑制します。そこで畜産業も盛んな南九州地域でパリセードグラスを耕種農家の畑輪作体系に導入し、線虫の増殖を抑制しながら畜産農家に飼料を供給する耕畜連携を想定して研究を行っています。

【研究の内容】

沖縄県および九州の畜産農家の放牧利用草地へのパリセードグラス導入事例はありますが、耕種農家の圃場ではパリセードグラスの導入事例はありませんでした。そのため、九州沖縄農業研究センター都城研究拠点の所内試験圃場で散播栽培と条播栽培を

比較検討しました。条播栽培では、小型トラクタの中耕を想定した条間120cmの広条播種も検討しました。

その結果、1) パリセードグラスは初期生育が遅いので雑草の発生が問題になること、2) 中耕のできる条播栽培が除草管理で有利なこと（図1）、3) 条間120cmの広条播種では13PS程度の小型トラクタで中耕除草が可能なこと（写真1）、および、4) 条間120cmの広条播種でも栽培期間を長くすることで条間80cm並の収量が得られること（図2）、が分かりました。

【今後の取り組み】

今回は研究所内の試験圃場で栽培試験を行いました（写真2）。今後、現地の農家圃場で同様の試験を実施する予定です。パリセードグラスの生育や線虫抑制効果が圃場環境で違うのかどうかを含め、線虫抑制作物であるパリセードグラスを畑輪作体系に導入する際の問題点をさらに整理しながら検討していきます。

【畑作研究領域 安達 克樹】



写真1 条間120cm 広条播種区における13PS 小型トラクタを用いた中耕作業

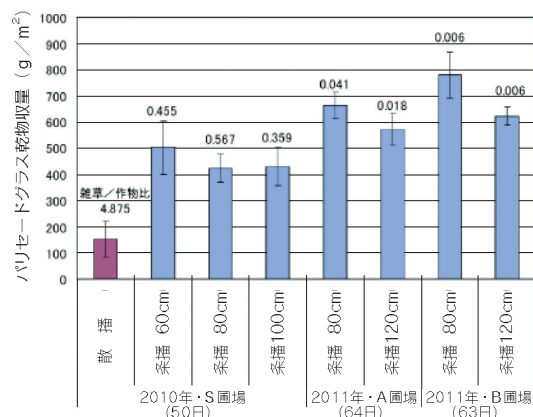


図1 散播条件および条播+中耕条件におけるパリセードグラス乾物収量と雑草/作物比

注) 括弧内は栽培日数

棒グラフ上の数値は雑草/作物比（乾物）



写真2 播種して約3ヶ月後のパリセードグラス (2011年10月17日)

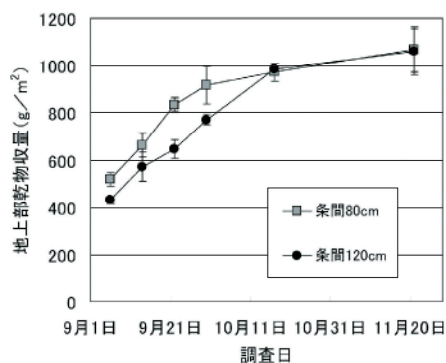


図2 パリセードグラスの乾物収量の推移

注) 播種日2011年7月12日